

## 相次ぐ偽装や有害物混入

F12

### 論 風

これからの食のキーワードは、「安全安心」と言ったら、多くの方は、いまさら何を言ってるんだと、思われるかもしれません。日本の食は、十分に、安全安心だと。

大学の授業で、「日本の食は安全安心ですか？」と問いかけてみました。

ほとんどの一般学生は、安全安心という認識でした。社会人向けの講演会でも、同様に、何度か問いかけてみました。社会人のおおむね半分は、安全安心に疑問を持っているようでした。

例えば最近では、トランス脂肪酸に関する話題が大きく取り上げられています。身近な、マーガリン、ドーナツ、フライドポテトなどに多く含まれています。諸外国では、健康リスクがあるということで、使用量が制限されています。平均摂取量は日本が少ないとはいえ、諸外国で規制されているものが、日本では規制されていないという事例が、珍しくありません。

日本には、大量に海外から食料や農作物が輸入されています。その中には、遺伝子組み換えの大豆やトウモロコシが、大量に含まれています。とりわけ日本国内で生産される畜産物のエサは、遺伝子組み換えトウモロコシが主です。日本では、遺伝子組み換え作物は、健康面や自然生態系などの観点

## ナチュラルアートCEO

### 鈴木 誠



すずき・まこと 慶大商卒、1988年東洋信託銀行(現三菱UFJ信託銀行)入社。ベンチャー投融資担当などを経て98年退社、慶応大学院ビジネススクールで経営管理を学び、2001年日本ブランド農業事業協同組合事務局長、03年3月ナチュラルアート設立。47歳。青森県出身。

## 日本の食は安全安心か

から懸念ありということで、国内での栽培は禁止されています。

### TPP参加に懸念

普通に考えれば、これは矛盾した現実です。もちろん、遺伝子組み換えを100%否定したら、現実が立ち行かなくなると主張する方や利権団体が多いことも承知しています。しかし、現行のルールや運用実態が、このままで良いとは、とても思えません。

環太平洋戦略的経済連携協定(TPP)交渉では、関税問題はかりが注目されていますが、食の安全安心問題も、極めて重要です。TPP次第で、

日本での食品添加物認可数が、いまの約4倍にも膨らむ可能性があります。米国のプレッシャーに負けてです。

化学合成添加物は、日本国内に急増する、アレルギーをはじめとした現代病の一因といわれています。

TPP関連でもうひとつ。先般、冷凍食品混入問題になった農薬マラチオンに関するルールも見逃せません。米国産米は国産米に比較して、マラチオンの残留農薬規制が、80倍まで多くても良いということになっています。

日本よりもはるかにルーズな、米国での残留農薬規制を黙認したままで、米国産米の輸入拡大をするなどとは、

あり得ない選択肢です。消費者は国や規制に委ねるのではなく、自らの健康は自らが守らなければいけません。

食品業界は、規制上の問題ではなく、消費者の安全安心をより意識した取り組みが求められます。とかく、そのような取り組みは、コストが上がるかと否定されがちですが、そのような規制以上の安全安心への取り組みは、他商品との比較優位性につながります。

### 利益優先でモラルハザード

多くの時間や努力を負担しても、結果として企業収益にも貢献することになるでしょう。いまの食品業界は、安くて便利な魔法のつえに、過度に依存しています。道徳心に富んだ日本で、経済優先の結果、食品偽装というモラルハザードまで引き起こしているという現実から、われわれは学ばなくてはなりません。

偽装問題は、単なる個人や組織の悪意の問題ではありません。業界や社会構造を見直す必要があります。

グローバル時代を迎え、また食料自給力の低い日本は、海外の利権やビジネスゲームに左右され、結果として食の安全安心が後退するケースが珍しくありません。

福澤諭吉先生が言われたように、経済の語源は、経世済民です。経済の本質は、世の中を安定させて民を救うことであり、決して狐と狸のマネーゲームではありません。

日本食は、ユネスコの世界遺産に登録されました。改めて、世界に誇れる日本の食を見直す、絶好の機会を得ました。食は、文化・健康及び経済に貢献する、素晴らしい産業です。